

コミュニケーション指導/支援の目的

- ・情報が不十分だと、課題や指示にも適切に応じられなくなりがち
- ・周囲の刺激や興味/モチベーション、疲労、ストレスなども影響
- ★必要な情報が理解できる形で手に入る 考えや気持ちが伝わるのが大切
- <必要な情報>…①今、何をすればよいか ②安心できる見通し（この課題はできる 楽しみが保障されている 嫌なことへの対策 終わりがみえている）③「これでよいのだ」と安心できるメッセージ
- <理解できる形>…①容易に理解できる記号や語彙（音声記号、シンボル、写真、絵など）②容易に処理できる量や複雑さ（長さ、文型など）

基本的な留意点

- ・他の人との違い（ユニークさ）が自信や希望に繋がるよう支援・指導する
- ・今持っている力や手に入る手段で、余力を残して（無理をしないで）コミュニケーションできる仕組みを整えることを優先させる
- ・日常生活より構造化されている場面でするようにすることが日常生活に反映されるには時間と工夫が必要
- ・周囲が本人の期待していることと本人の能力や特性とにズレがあるとどちらも心穏やかに過ごせない為、評価＝能力や特性の把握が不可欠

支援のための評価の視点

- ①どの程度見通しを持っているか ②見通しに関する不安や混乱がないか ③変更や想定外への反応はどうか ④活動/課題の終了⇒次の行動への切替はスムーズか（気持ちの面も含めて）

ビデオ解説による ASD 児の課題への取り組み

事例	Aくん（4歳）自閉症スペクトラム、知的障害（中度）通園療育を利用中（年中クラス）
4歳6か月時	当相談室 ST 初回評価
保護者の主訴	やってほしいことをうまく伝えられず癇癪を起すことが多いので、言いたいことをもう少し伝えられるようになってほしい。
評価	〈S-S法〉 言語発達遅滞検査

◎Aくんの為の事前予告は写真の呈示（部屋、靴箱など）

◎予定（イラストやマーク、シンボル、写真カード）は左から右に呈示

※実用的なコミュニケーション能力や行動特徴を把握し、指導/支援に役立てるために玩具を介したインフォーマルな評価も行う

導入（着席～課題）

- ・指さしでカードに注意を向けるが体は半分、電車の方を向いている
- ・取り掛かりやすい課題から始めるとやっているうちに体はまっすぐ向く

休憩時間の観察の視点

- ・自分で遊び方/過ごし方を決められるか
- ・1人で穏やかに/楽しく過ごせるか（人を巻き込まないと過ごせないか）
- ・自発的なコミュニケーション（玩具や本をかりたいとき、困ったとき）
- ・見通しのつけ方（終了時間の意識）や遊びから課題への切替

★継続的な支援に繋げるため、療育の場/療育者が子どもにとって安心できる場所/人となることが重要。1回で（評価）の決着をつけようと無理しない（頑張らせすぎない）ようにする

★動機づけ（モチベーション）は、今後の指導/支援を円滑に進めていくために非常に重要な要素である。子どもが何によって動機づけられるか（どうすればやる気にさせるか）、保護者インタビューや行動観察を通して情報収集を心がける。

【講義②よこはま発達相談室 言語聴覚士 飯塚直美先生】

包括的・系統的な言語的働きかけのプログラム

★言語・コミュニケーション指導では、それぞれの子どもの言語発達水準やコミュニケーションの特徴、認知性に応じた包括的かつ系統的なプログラムが必要。

★<S-S法>、TEACCH、SPELL、PECSなどの理念や技法を自身の経験に照らして吟味・統合して臨床を行っている

Aくんの初期の主な指導プログラム	受信の構えの形成⇒3語連続の受診を確実にする
	語彙（受信・発信）の拡大 ※動作語を中心に
	2語連続の発信拡大 など

指導を行う上での基本的な留意点

- ◎できて（わかって）終わるように
- ◎できたことが（なるべく視覚的に）わかるように FB⇒モヤモヤは最小限に
- ◎個々の課題についても「どれだけやれば終わるか」を可能な限り明示
- ◎興味を持つ教材を取り入れる
- ◎気持ちの切り替え（納得・同意）に十分に留意する

ビデオ解説 Aくんの指導への環境調整

- ◎机に手形を貼り、そこに手を置くように促す
- ◎絵の上にアクリル板をかぶせる、マグネットで絵をホワイトボードに固定
- ◎興味のある題材で見本の FB は視覚的にわかりやすく呈示

理解面の支援の原則

- ◎本人が理解できる記号、処理できる情報量を示す
- ◎困っていないようにみえても情報を視覚的に呈示したら、もっと楽に、かつ確実に理解できるかもしれないと考えて支援する
- ★視覚的な手掛かりがあることで、より安心して/自信をもって/余力を残して活動に取り組めるようであれば積極的に使っていく

表現面の支援の原則

- ◎支援者は子どもが安心して伝えることができる存在となるように努める
- ◎安心感や充実感に繋がる表現技術の習得、表現手段の確保の優先
- ◎話し言葉にこだわらず、無理なく使えて相手にも伝わりやすい手段を用いる

視覚的な方法の利点（表現/発信面）

- ◎持続的に提示できるので、同時に複数の選択肢を比較できる
- ◎頭の中から言葉を探し出すストレスがない
- ◎話せる子どもでも不安や緊張で言えなくなった時に使える
- ◎自分で選ぶ、確認できる、修復しやすい
- ◎自発的な使用につながりやすい
- ★本人にとって意味のある情報ができるだけ楽に手に入るように
- ★本人の考えや気持ちや潜在するニーズが、相手にも伝わる形で表現されるように言語・コミュニケーション基礎向上を図る
- ★基礎力の向上により、コミュニケーションによる負担を下げて余力を残すことができる